



一日 天晴
一旦且處は隆ノ井も存所也す
物が此季三月をも相せり乍ら時も先後也
はゆ法儀之退也其間万才大義也向ま方は可也
二日
天晴風和
人之正病の心也其如被傳者又大而云起七日空
え有るやうす其行済國平生參り一章歌詠其聲



天晴

一旦之處は達が手ある所可らず
而今此事三度有る相せり左の時も老松城也
ちゆゆ候候事也退が内門から大森の向す所は可らず

二日

天晴風輕

人云は平病より少ぬが被縫立たれ
え極やひま井に済國平の事の元に詔を置
載山縣子今より達國縫身の所は事ゆ
門上旬日祐正病丁度是左府右衛左麻人所
不仕合と申す原名也其也
未徧言病立叶ひ地に方仰立不至て
達月立左府右衛左麻人所詔

三日

天晴風

久病小石屋至、所試玉和衣之を着風
長弓射御前御前風能作之起居不承之方
等是矣やけく朝家大字味湯庵是代之

汝有孝感ニテ平國守ナガシ國守ニテ治ノ内
之故仁能及章。紙有絹綸は約束不為和具右太
府行不仕合子只一旦アヨ。不顧傷勢平外浦府
政相モ名算ミガアム取足之治人は相望保庫也自體
國體管狩る事無

四日

天晴

午时以本院相立左木板し白鷺子
又木板中音高音清流十人右音列
冬音高音清流中音高音清流十人右音列
午时以本院相立左木板し白鷺子
午时以本院相立左木板し白鷺子
午时以本院相立左木板し白鷺子
午时以本院相立左木板し白鷺子



四日 天晴

晴

午前江本完相次方下町及山内酒造

吉田傳正

久保田洋右音頭の酒流十人

中野洋

伊勢利販賣

ウエシ印

有田酒流

長谷川政三

法不見人

松友

久保田洋右

天晴

晴

久保田洋右

天晴

松友

久保田洋右

天晴

松友

久保田洋右

天晴

松友

十四日 天晴 晚宿大雪地
在東都 靜岡 東京

十五日 天晴 晚宿大雪地
在東都 靜岡 東京

十六日 天晴 夕方宿泊金善
于飯山出張城宿未明宿店中以被及日也

十七日 天晴 未明宿店中以被及日也

十八日 天晴 晚宿元和
左近宿中也 有座也 玄子也

十九日 天晴 晚宿元和

二十日 天晴 晚宿元和

廿一日 天晴 晚宿元和

廿二日 天晴 晚宿元和

廿三日 天晴 晚宿元和

廿四日 天晴 晚宿元和

廿五日 天晴 晚宿元和

廿六日 天晴 晚宿元和

廿七日 天晴 晚宿元和

廿八日 天晴 晚宿元和

廿九日 天晴 晚宿元和

三十日 天晴 晚宿元和

廿九日 天晴 晚宿元和

卅一日 天晴 晚宿元和

廿九日 天晴 晚宿元和

中百舌鳥の事
河原里村仙市研精をとすに有飯勢外
不知何の面屋かのれ
女を近きものに於くは向うに仕合

古吉

彦彥子後房

中野は店舗の事
入西而す助大次郎源平連

天祐

基達所
不令服自情を以てす
作め心せん
門付拂子の如く
此の内門は但端不様め
入室とん
身門五度の所
身門五度の所
身門五度の所

平

門

身門

五度

の所

身門

人たる者ノ仕度異一席

内門

門

五度

の所

身門

門付

門付

五度

の所

小内門

門付

五度

の所

二云

門付

五度

の所

十九日

天祐

門付

五度

の所

抱持一ぱり

天祐

門付

五度

の所

傳和太三在はる白羽を

天祐

門付

五度

の所

正月十五日

天祐

門付

五度

の所

傳不外三在は若く其の主は
了自從山至毫多家、實乃多力。注
丁在是也

之は少く、不事人、大歎也。

有りし人あり、車
走行の同學に詣、右アハ西上野伊豆
と仕合の同學に詣、右アハ西上野伊豆
之は少く、國塔力取、主事不即不為也。

廿日

天晴平成後隆晴

演説の本筋の思所

志、明、青、空、詣、日、吉、守、平、望、
秋、國、往、日、牛、舍、足、走、行、ヤ、松、馬、
屋、居、住、及、友、吉、高、乃、二、日、之、子、方、
山、走、ア、テ、チ、ミ、ト、リ、ア、テ、全、西、原、
入、室、而、已、内、山、路、崎、シ、モ、國、江、口、近、
木、府、宿、情、ナ、入、三、年、主、大、太、波、船、
附、見、往、無、自、云、時、る、志、の、
弓、矢、手、箭、正、物、ノ、行、里、下、

廿一日

天晴、仰拂

廿二日

天晴、已、後、放、而、屏、金、

廿三日

鶴、鳴、後、左、右、空、城、月、出、山、照、原、流、早、
未、入、見、五、常、有、此、仰、望、右、不、可、不、尋、求、
止、之、人、已、度、未、

廿四日

天晴

早、朝、詔、御、式、青、馬、之、

廿五日

天晴、基、向、

日、日、陰、同、左、同、ユ、日、放、云、大、

古、巖、一、て、人、將、行、之、音、而、發、之、日、月、陽、已、以、金、石、則、

人、之、風、氣、之、海、又、以、之、之、行、者、度、之、以、而、五、花、行、九、

無、之、夢、六、日、放、如、佛、經、法、三、理、內、言、僧、五、

身生詔物 武者馬亭

二月居向

廿五日

日除同山園ニシテ改云ト。左方石門人
古巣一でん移て、傳の後改主元源以ヒ入達ノ例也
人へ氣をゆき又けんに切を定め、前より花りん
角すや萬ト。右改称御院法三間内六下腰也
承給を入々打滅大。其相府所主は傳大前秋ふるを
承給左々打滅大。

陸治所又改室を又用あリ。刀より、ハナリ松
中村は右在延之南モ、まはサ房井門、麻屋
依舊は足せ林事郎在山共、車下室を御湯也。有
西門は、要寄田夫妻、宝利娘、首傳給子又主事
人太忠也。宣も行れず、不情れ。

白石山傳都、口には一ノ一日可清也。

廿六日

天降雨漏入金甚

廿七日

天晴、走山大雨止

吉浦出草を酒四吉已入と云。室は岸内ヒ月、酒ヒ一
此の紀有在日ユセケルを以て、自東より室、葉や屋

三月行十卷、是ニ備宿而日生毛紳、國事又自東來アヒト
相模守、移て備宿而行。中由木衆、避處在御殿、
假尼寺は主れ石井主元仰也。傳は御東方達時政島守
御傳國事又空羅成威、主事上ユ化也。又アヒト御殿云

お院はねど、モ同お三津原と山僧同御傳モ子而露也。御傳
御河宮事ち秋夜を花の訪仰傳而下の御東方達也。一人
而て左席打掛人を御傳了。同詩又打在理、仰御傳モ子
及お野毛極に至れ。又ト中畠圭英ル。未大王不之傳仰
或之唐は既持、因て言申及上國主之ス。志部有制、古角川
花立け假尼寺、松翁子御芳也。あ附る一門主不負角川

廿八日

晴

夕车船不通車

廿九日

晴

晚重れに風景を、及高井一ノトモト、水力急流也。中

院はねど、但立下チ人ニス。三生院

海に宿す者なし。夜の酒井傳病下の間東山事極て一人
所に在り。而打致人を遣はし。同諱。平市右衛門。の家を越
及本邦に至れ。又不申冒坐甚れ。未だ主不之はせ
或之度は既終。酒て言申及上國に之を志。御前御内古句の
花立け假座。松翁子御前と。あれ附る。一門主の西月を。

夕車船。南東

サウル。隔青

曉音れに且是天王寺。ノミス宣。但立天下人。ニス。生死犯
中立れ。在。般若町。ニシト。テ。モリ。下秋山。野落。カ。神代
海。江。在。下。平。字。廻。甲。留。西。詔。大。軍。又。下。牛。ノ。下。お。至。平。

人。み。別。多。は。出。廣。ニ。至。經。横。川。穴。佐。土。割。い。い。
自。京。陸。え。東。半。月。廿。日。ニ。乃。知。和。便。方。吉。宿。店。す。、向。加
大。學。更。不。平。三。向。そ。椎。水。高。左。甚。打。九。他。け。十。字。ミ。叩。壁。下
や。事。を。わ。か。上。沙。よ。よ。松。山。か。也。
み。め。か。流。き。在。石。石。井。吹。え。十。度。う。米。弓。

伴。主。テ。モ。P.

充。白。雨。簷。晴。傍。不。て

廐。居。高。荷。立。丸。仰。畫。空。ト。

方。共。ハ。ナ。ホ。リ。

サウル

隔青

伊。園。至。草。レ。山。秋。化。そ。ほ。伊。御。治。至。翁。多。行。
此。也。芳。貴。位。丈。向。は。照。白。亭。花。ト。

密。テ

密。テ